

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 23 日現在

機関番号：11302

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23531239

研究課題名(和文) 国際理解教育・国際教育協力のためのデジタル紙芝居教材の構築法に関する研究

研究課題名(英文) Research on the construction of teaching materials of digital picture story show for international understanding and international cooperation

研究代表者

村松 隆 (MURAMATSU, Takashi)

宮城教育大学・大学院教育学研究科高度教職実践専攻・教授

研究者番号：10134074

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円、(間接経費) 1,230,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、文字解説を含まず絵や写真等を中心としたデジタル形式の紙芝居クリップ教材を作成した。素材に用いた写真は、主にJICA青年海外協力隊員(JOCV)から提供を受けたものである。この写真に短い解説文を付加し、環境(自然・社会・人間、ESD)をテーマとした紙芝居として、国際理解教育、国際教育、国際教育協力の分野で活用できるようデータベース化したものである。このデータベースはWebで閲覧できると共に、DVDでも提供している。これらは、環境や人の暮らし等を題材に、ESDに関するグローバルとローカルな諸課題の学びに役立てられる。

研究成果の概要(英文)：In this study, the photo-clip teaching materials on environments(subjects: nature, society, human, and ESD) were constructed. Photographs used for the material were collected from members of JICA Volunteers(JOCV). Through the analysis concerning the relativity of the photograph and ESD, several short explanation sentences were added to the file of photograph, and finally, the teaching material of the clip type of digital picture story show was constructed. This teaching material is delivered as 'ESD teaching material library' in the Internet(www) and DVD which are used for the education of international understanding, the international education, and activities of the international cooperation.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：紙芝居クリップ教材 ESD 国際理解教育 国際教育 国際協力 データベース

1. 研究開始当初の背景

本研究課題の代表者と分担者は平成 15 年から平成 21 年の間、文部科学省の国際協力イニシアティブ事業（青年海外協力隊員に対する教育支援と教育マテリアルの提供）を担当し、派遣現職教員に対する教育支援を行っていた。この事業は、派遣現職教員の途上国任地における教育活動（学校教育と住民教育）への教育支援と、隊員の 2 年間の海外教育経験を帰国後の学校教育に如何に還元するかという国際理解教育の質的充実と帰国隊員（現職教員）に対する支援援助を主な内容としたものである。当時は、環境教育分野を中心に、派遣現職教員の要請に応じて様々な質の教材を提供し実践指導を進めてきたが、任地の活動目的に合致した教材の不足が原因で、協力効果に支障をきたしている場面も多く見受けられていた。特に、環境教育に関わる協力隊員の活動は、多領域活動・領域横断的活動が多く、地域特性を反映した活動等によって既存する教材を共有化・再活用しにくいという性格をもっている。この意味で、協力者自ら、身近な多くの素材を活用して課題対応の教材開発ができる方法を整備することが必要とされた。紙芝居は、写真や絵を中心としたもので、言語による壁が無く、特に、途上国教育においては、斬新な教材として受け入れられることが多いことから、紙芝居という特徴を活かした教材の構築法と活用法についての実践的な研究が求められていた。

2. 研究の目的

文字解説を含まず、絵や写真等を中心とした紙芝居の教育技法を活かして、環境教育（自然、社会、人、ESD）に適用できる紙芝居クリップ教材を開発し、これをライブラリに集約し、データベースとしてインターネット等により配信することである。

3. 研究の方法

(1) 素材として「写真画像」の入手

国際協力機構 JICA 事務局の協力のもとで、青年海外協力隊派遣現職教員（JOCV）（派遣中の隊員と帰国した教員）が任地で撮影した写真（デジタル型写真とその説明文）を入手する。

(2) 写真画像の分析・分類

入手した写真画像をマイクロソフト社製のパワーポイントに張りつけ、パワーポイントのファイル操作により写真の分類整理を行う。

(3) フォト・クリップの作成

写真画像を導入したパワーポイントファイルは、文字解説の付加や画像の編集が容易で、紙芝居を構成する素材として利用できる。“素材となる”という意味から、このパワーポイントファイルを“フォト・クリップ”と呼ぶことにする。本研究で作成するフォト・クリップは、環境課題を主な内容とし ESD のためのクリップ(ESD フォトクリップ)で、

文字解説を極力抑え、学習者が学ぶべき事項等、教育意図が明確になるようにストーリー（短い解説・説明文）が付加される。このフォトクリップは、Web システムを通して（インターネットを經由して）、青年海外協力隊員や JICA、国際協力関係機関、学校関係者に無償配信できるようにする。

4. 研究成果

(1) 写真画像のキャラクタリゼーション

JOCV の派遣中隊員と帰国隊員（現職教員等）から入手した任地の写真画像について、図 1 に示すような情報を付加し、写真の特徴づけを行った。

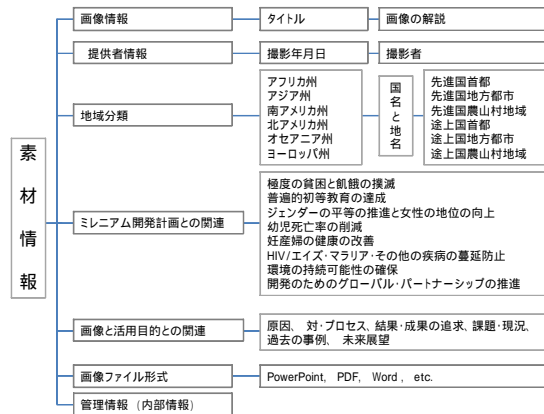


図 1 写真情報の分類

図 1 に示す素材情報の分類区分は、ESD の取組に役立つものであり、紙芝居のストーリーを特徴づけるものである。具体的には、以下の事柄を目指したキャラクタリゼーションを行った。日常生活課題に焦点をあて、身近な地域の環境問題とその取組を関連づけていること。ミレニアム開発目標(MDGs)との整合性を接点とする ESD の取り組みの方法を明確にすること。途上国と先進国で撮影した画像を扱うことで、途上国（都市、農村地域）で起きている様々な問題や取り組みを、先進国（都市、農村地域）で起きている問題や取り組みと比較関連づけて学習できること。多言語・他文化社会における ESD 学習を推進するに適した教材（言語の違いによる理解促進上の障害を出来るだけ除去する教材）となっていること。

(2) 紙芝居型のフォト・クリップ

図 2 は、JOCV 隊員から提供を受けた写真（表面）とその分析結果（裏面）を 1 枚のパワーポイントファイルにまとめたものである。紙面の中央に折り線が、下側の分析結果はさかさまに配置している。印刷した用紙を中央で 2 つに折ると、1 枚の紙芝居が出来る。つまり、紙芝居型のフォト・クリップである。

世界各国から持続可能性に関する写真画像を収集し、汎用性の高いマイクロソフト社のパワーポイントの作業環境を活かしたクリップスライドのセットによるフォト・クリップ教材集が開発された。クリップ・スライドの出力・印刷による紙芝居の作成、ウェブアーカイブの属性検索(地域・国、地名、写真撮影場所、ミレニアム開発目標、機能分類、その他キーワード)に基づくグループ化・ストーリー化によりESD対応のデジタル紙芝居の構築が可能となっている。写真画像は図7に示す6州38ヶ国から収集したもので、総計500枚にのぼる(2014年現在)。

- ・ **アフリカ州 (70枚:8ヶ国)** - エジプト・アラブ共和国、マラウィ共和国、モロッコ王国、ニジェール共和国、ウガンダ共和国、ルワンダ共和国、ケニア共和国、ガーナ共和国
- ・ **アジア州 (320枚:19ヶ国)** - 日本、インドネシア共和国、ウクライナ、ネパール連邦民主共和国、ブルネイ・ダルサラーム国、モンゴル国、ロシア連邦、イラン・イスラム共和国、シンガポール共和国、台湾、インド共和国、カンボジア王国、タイ王国、パキスタン・イスラム共和国、フィリピン共和国、ベトナム社会主義共和国、ラオス人民民主共和国、大韓民国、中華人民共和国
- ・ **南アメリカ州 (11枚:2ヶ国)** - チリ共和国、パネズエラ・ボリバル共和国
- ・ **オセアニア州 (49枚:4ヶ国)** - フランス領ポリネシア、フィジー共和国、オーストラリア連邦、ニュージーランド
- ・ **ヨーロッパ州 (15枚、2ヶ国)** - グレートブリテン及び北アイルランド連合王国、ドイツ連邦共和国
- ・ **北アメリカ州 (35枚:3ヶ国)** - アメリカ合衆国、メキシコ合衆国、ドミニカ共和国

図7 写真画像の入手国

これらのフォト・クリップの活用方法は多種多様である。自身の写真画像に属性と解説文を付記したクリップ・スライドをつくり、本研究で開発したフォト・クリップ集と組み合わせることで、教材のアダプテーション(適合)が容易化し、グローバルな視点での地域を題材とした現実的教材の構築が可能になる。ウェブアーカイブのキーワード検索と関連教材・活用実践事例資料(文献のURLより入手可)も併せて利用すると、様々な目的に応じた使い方ができる。これまで、海外小学生とのコミュニケーションによる国際理解教育、国内の海外高校生を含めた異文化コミュニケーション、海外高校生を対象とした開発教育・消費者教育、国内大学生を対象とした開発教育・環境教育、青年海外協力隊技術保管研修での実践により、本研究成果の検証を行い、紙芝居型教材・教科横断的教材としての有効性を確認している。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計9件)

建元喜寿、工藤泰三、吉田賢一、佐藤真久、村松隆、多言語・多文化社会における地球市民性の醸成にむけた機能的クリップESD教材の開発と活用 - 筑波大学附属坂戸高等学校の国際交流活動における教材活用を通して、日本環境教育学会関東支部年報、査読無、8号、2014、pp.19-24。
 工藤泰三、建元喜寿、吉田賢一、佐藤真久、

村松隆、多言語・多文化社会における地球市民性の醸成にむけた機能的クリップESD教材の開発と活用 - 筑波大学附属坂戸高等学校の「国際科」の授業における教材活用を通して、日本環境教育学会関東支部年報、査読無、8号、2014、pp.25-30。

吉田賢一、建元喜寿、佐藤真久、工藤泰三、村松隆、多言語・多文化社会における地球市民性の醸成にむけた機能的クリップESD教材の開発と活用 - インドネシアの公立小学校における写真教材を活用した実践報告、日本環境教育学会関東支部年報、査読無、8号、2014、pp.31-34。

村松隆、佐藤真久、建元喜寿、吉田賢一、工藤泰三、多言語・多文化社会における地球市民性の醸成にむけた機能的クリップESD教材の開発と活用 - デジタル型紙芝居クリップ教材データベースの構築、日本環境教育学会関東支部年報、査読無、8号、2014、pp.35-40。

村松隆、子どもの環境教育のためのデータベース、子どもと発達教育、査読有、9巻、No4、2012、pp.252-257。

村松隆、佐藤真久、吉川まみ、建元喜寿、多言語社会対応に向けた機能的クリップESD教材の開発-ミレニアム開発目標との整合性に配慮したESD教材開発、日本環境教育学会関東支部年報、査読無、No6、2012、pp.71-76。

建元喜寿、工藤泰三、金野良祐、佐藤真久、インドネシアと日本の高校生による協働プロジェクト型ESRの実践、日本環境教育学会関東支部年報、査読無、No6、2012、pp.7-12。

鈴木敏正、佐藤真久、「外部のない時代」における環境教育と開発教育の実践的統一にむけた理論的考察 - 「持続可能で包摂的な地域づくり教育(ESIC)」の提起、環境教育研究、査読有、21巻、2012、pp.3-14。
佐藤真久、国連ESDの10年(DES)のもとでのESDの国際的動向-その課題と展望、グローバル化時代における持続可能な包摂型社会の構築にむけて、季刊環境研究、査読無、No163、2011、pp.30-41。

[学会発表](計3件)

建元喜寿・吉田賢一・佐藤真久、青年海外協力隊員と連携したインドネシアにおける両国高校生の協働3R活動の実践とESD、日本環境教育学会第23回大会、2012、8月10日。

佐藤真久・吉川まみ・建元喜寿・村松隆、多言語(ヴァナキュラー)社会対応に向けた機能的クリップESD教材の開発 - 持続可能な開発目標(SDGs)の理念に配慮したESD教材開発 -、日本環境教育学会第23回大会、2012、8月10日。

吉川まみ、佐藤真久、村松隆、多言語(バナキュラー)社会対応に向けた機能的クリップアートの開発-ミレニアム開発目標

(MDGs)との整合性に配慮した環境教育教材開発、日本環境教育学会第22回大会、2011.7月16日。

〔図書〕(計1件)

佐藤真久、村松隆、世界と地域をつなげ「話し言葉」による参加と対話を促すESDフォト・クリップ教材集、DVD(日本語版・500枚・38ヶ国)、社会福祉法人東京コロニー、2014。

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

〔その他〕(計1件)

村松隆、佐藤真久、吉田賢一、ESDフォト・クリップ教材集、http://dbee.miyakyo-u.ac.jp/esdphotoclip/material/s_menu.html, 2014。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

村松 隆 (MURAMATSU, Takashi)
宮城教育大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻・教授
研究者番号 10134074

(2) 研究分担者

佐藤真久 (SATO, Masahisa)
東京都市大学・環境情報学部・准教授
研究者番号 00360800